



肝ぞう通信

第4号 《薬物間相互作用について》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。

当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：

平日 9:00～15:00

土曜日 9:00～12:00

(第2・4土曜日除く)

豆知識

セイヨウオトギリソウは別名セント・ジョーンズ・ワート呼ばれ、抗うつ作用などを目的として市販のサプリメントやお茶に含まれています。セイヨウオトギリソウはCYPの働きを強める作用があるため、飲み合わせの多い薬が多くあり、注意が必要です。

次回号

テーマ：

利用可能な制度について

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

薬物間相互作用とは？

薬物間相互作用とは、複数の薬の飲み合わせによって、薬の効果が過剰に出てしまったり、逆に弱まったりすることを言います。その結果、副作用が出たり、薬が効かなくなってしまうことがあります。また、薬同士の相互作用だけでなく、食品やサプリメントなどとの相性が悪い薬もあります。

薬物間相互作用の例

C型肝炎の治療薬「エプクルーサ[®]」を例に挙げて見てみましょう。エプクルーサ[®]はベルパタスビルとソホスブビルを組み合わせた合剤です。ベルパタスビルとソホスブビルは肝臓のシトクロム P450 (CYP450) という酵素で代謝されます(図①)。この CYP450 の働きを強める薬の抗てんかん薬のフェニトイン、カルバマゼピン、フェノバルビタールと一緒に飲むと、ベルパタスビルとソホスブビルの血中濃度が低下し効果が減弱する恐れがあります。これらの抗てんかん薬がエプクルーサ[®]と相互作用を起こす機序は他にもありますが、抗結核薬のリファンピシン、サプリメントなどに含まれるセイヨウオトギリソウも同じ理由でエプクルーサ[®]の効果を弱めてしまうことが知られています。